

戴内 江美
《蒟醬盛器「過日」》
東京都教育委員会賞

第43回

日本伝統漆芸展



2026年
3月14日 土 — 3月29日 日

会場：高松市美術館1階【常設展示室1】

〔観覧料〕

一般 200円 (160円) 大学生 150円 (120円) 65歳以上・高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※常設展示室2もご覧になれます。※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

〔開館時間〕

9:30～17:00 (入室は閉館30分前まで)

※ただし、金・土は9:30～19:00

〔休館日〕

月曜日

主催 = 高松市美術館

公益社団法人日本工芸会

後援 = 文化庁 香川県 香川県教育委員会

朝日新聞社

公益財団法人岡田茂吉美術文化財団

四国新聞社

NHK高松放送局

KSB瀬戸内海放送

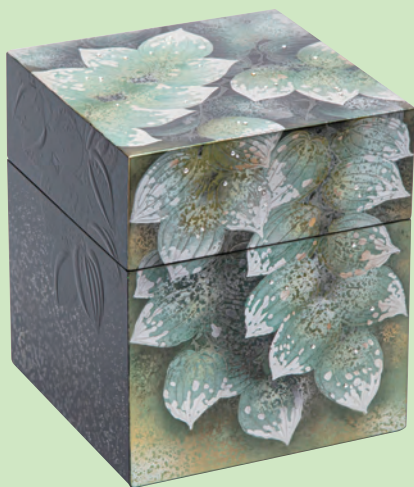
OHK岡山放送

RNC西日本放送

RSK山陽放送

TSCテレビせとうち





須藤 靖典《蒔絵漆箱「さりげなく」》
文部科学大臣賞

常設展示室 1

第43回 日本伝統漆芸展

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会展として開かれています。第43回となる本展は、東京・高松の2会場を巡回し、受賞作7点を含む入選作品全76点を展示いたします。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することができるといえない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求と共に、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「讃岐漆芸の美」も併せて鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。



鳥毛 清《沈金飾箱「望郷」》
朝日新聞社賞



根本 曠子《乾漆切絵茶筥「四季折々」》
MOA美術館賞



三好 かかり《彩切貝蒔絵小箱「GINZA」》
奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞



柿原 千尋《乾漆螺鈿平文香合「香韻交わる」》
日本伝統漆芸展新人賞



大谷 早人《藍胎蒔醬茶器「渡り」》
重要無形文化財「蒔醬」保持者

列品解説

① 3/14(土) 14:30～

藪内 江美氏 (日本工芸会正会員)

② 3/28(土) 14:30～

辻 孝史氏 (日本工芸会正会員)

上記出品者による展示作品の解説を行います。
当日直接会場にお越しください。
※予約不要、要観覧券

同時開催／常設展示室 2

2025年度 コレクション展 4

讃岐漆芸の美

讃岐漆芸が、香川県の代表的な伝統産業に発展したのは、江戸末期に登場した玉椿象谷(1806-1869)の功績によるものです。象谷の作風は、極めて多彩で、独自の漆工技法を完成させた「蒔醬・彫漆・存清」は「香川漆器の三技法」と呼ばれています。弟の藤川黒斎(1808-1885)が技法を受け継ぎ、全国に蒔醬・存清漆器を紹介しました。また、高級漆器を扱う「百花園」とその周辺からは石井馨堂(1877-1944)、鎌田稼堂(1896-1957)など彫りの名手が優品を残しました。

さらに、磯井如真(1883-1964)は、1913(大正2)年、網目凸版印刷にヒントを得た「点彫り蒔醬」を創案し、音丸耕堂(1898-1997)は、鮮明な色漆を使って豊富な色彩表現

を可能としました。

1955(昭和30)年に重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝が誕生しました。同年、音丸耕堂が「彫漆」で、翌年には磯井如真が「蒔醬」で、その後、磯井正美(1926-2023)、太田壽(1931-2019)、山下義人(1951-)、大谷早人(1954-)が、「蒔醬」により重要無形文化財保持者に認定されました。また、1962(昭和37)年には香川宗石(1891-1976)が「存清」で香川県指定無形文化財保持者に指定されています。

本展では、讃岐漆芸の祖である玉椿象谷や人間国宝による作品他33点の漆芸作品を通じて、讃岐漆芸の魅力を探ります。



【交通のご案内】

- ◎ JR：高松駅下車、徒歩約15分
- ◎ こことでん：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ 路線バス：紺屋町または丸亀町参番街下車、徒歩約3分
- ◎ 高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 空港リムジンバス：兵庫町下車、徒歩約4分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車 144 台収容)
※駐車場の混雑状況については「どこぞ車ナビ高松」で確認できます。